【静岡県納税貯蓄組合連合会　会長賞】

「ありがたい税金の制度」

磐田市立神明中学校　三年　荒木　柚咲

「ねぇ、お母さんはこの制度をどう思う。」

今年の夏、私は手術と五日間の入院をした。二年前に体に悪いところがみつかり、定期的にＭＲＩや血液検査、心電図など多くの検査を受けてきた。小さい頃も、熱を出したり花粉症になったり、何度も受診してきた。そして、いつも支払いをしていないこと、それが、磐田市のこども医療費助成制度のおかげだということも母から聞いて知っていた。でも今回の手術と入院代はこれまでの通院とは比べものにならないくらい高額だった。それでも、支払いはなかった。

「ありがたいの一言に尽きるよ。おかげ様で安心して受診できるし、必要な検査を受けられるからね。」

そう言って母は、引き出しから色のついた紙の束を持ってきた。それは、今までに市からいただいた「こども医療費受給者証」だった。とても大切なものだから捨てられずにいると言う。数えると全部で十五枚あった。

「柚咲が小さかった頃は、通院一回五百円で、確か月五回目から無料だったかな。それでもとてもありがたかったけれど、いつからかすべて無料になったんだよ。」

記念すべき最初の一枚、私の生まれた平成二十年の受給者証は「乳幼児医療費受給者証」と書かれており、黄緑色だ。それから薄いオレンジ色、水色の順で毎年変わっていき、母が言っていた通院・入院が無料になったのは、平成二十九年の四月からだった。入院時の食事療養費については市が助成と追加されている。なるほど、それで私の入院代も支払いをしないで済んだのか。令和四年になると受給者証の大きさが今までの半分くらいになって、有効期間も令和九年三月三十一日になっている。私が高校を卒業する年だ。調べてみると、昨年十月から助成の対象が中学生から高校生までに延長されていた。すごいな。内容を年々より良く、より充実したものに進化している。きっとたくさんのお父さんやお母さんの思いが一つになり、その都度声になって届いたのだろう。私たち子どもの健康は、この制度に守られ、助けられている。たくさんの恩恵を受けていることに心から感謝した。

もちろん、このような充実した制度を作るにはたくさんのお金が必要であり、そのお金は多くの人が一生懸命に働いた大切なお金である。皆の協力のもとで、この制度は成り立っている。私たちはもっと税金について興味を持ち、その使い方について積極的に意見を出すことが大切だと思った。税金をどんなところでどう使っていくかを皆で考えることで、税金の大切さがよく分かり、より有意義な使い方が出来るのではないかと思う。私も税金を支払う立場になったら、きちんと納税し、今度は多くの子どもの健康を助ける一員になりたい。そして、どんなふうに税金を使ったらいいのかをしっかり考えられる大人になりたい。

【磐周納税貯蓄組合連合会　会長賞】

「困った時に私達の生活を支えてくれる税」

磐田市立豊岡中学校　三年　尾崎　翔啓

私が小学校一年生の時に、父が「多発性骨髄腫」という「血液のがん」にかかってしまいました。父は医科大学病院で大量の抗がん剤と移植手術を受け、長期の入院をしました。無菌室にいたため、子供の面談は許されず、退院後、頭髪を失い、とても痩せ細ってしまった父の姿を見た時の衝撃は忘れられません。「なんで、俺がこんな病気になってしまったんだよ。」という言葉を口にしてはずっと落ち込んでいた姿を思い出します。その後、自宅療養と通院を続け徐々に体調は回復し、仕事にも復帰できた一方で、よく治療費やお金のことで母親とけんかをしている場面を見てしまい、家族内に不穏な空気が漂う日がありました。それでも家族のため、仕事と通院治療を懸命に続けている姿を見て数年が経過、病気はほぼ治ったと思っていました。ところが、私が五年生の時、父の病気の再発が判明してしまいました。父の二回目の移植手術は成功しそれ以降、更に四年経った今でも副作用を抱えながらも、仕事と治療をずっと両立させています。

今回、この税の作文を書くにあたり、父に日頃、気になっていた治療費のこと等について聞き、深く調べてみることにしました。最初、入院した時は五百万円超の莫大な医療費の明細書を受け取り、自己負担の三割でもとても支払える金額ではないと思ったそうです。そこで利用したのが高額医療費支給制度というものでした。その制度は国民保険税の使い道の中の制度で誰でも利用することができます。医療機関や薬局でかかった自己負担額が、一定額を超えた場合、上限額が年齢や所得に応じて定められており、平均的な所得の人であれば、一か月の自己負担額は約八万円程度でよいというものです。さらに、直近十二か月の間に三回以上高額療養費の対象になった場合、四回目以降は更に自己負担額が引き下がり、多数該当の限度額が適用される特例制度がありきます。この制度のおかげで治療を諦めることなく、今でも一週間おきに検査と抗がん剤点滴治療をどうにか受け続けることが出来、その恩恵に感謝しているそうです。今回、初めて給与明細を見せてもらい、その中には社会保険料、所得税、住民税と項目の記載があり、下にいくら支払うのかの金額が出ていました。正直、「こんなにもたくさん払っているのか。」と思いました。でも日本では、この税金を元に様々な社会保障制度があり、困った時でもある程度、安心して生活ができるようになっていることを知りました。一人ひとりの税金が人と人とを支え合い、助け合い、人の命を救い、幸せをもたらしていると言えます。これからは、公平な税負担と給付や社会保障制度をもっと詳しく勉強し、社会に貢献するために税をしっかり納めることができる大人になりたいと思います。

【磐周納税貯蓄組合連合会　会長賞】

「税金のあたたかさ」

磐田市立神明中学校　三年　鈴木　ゆわ

私が税金のありがたみを一番感じる時は、新しい教科書が配られる時です。教科書の裏には必ず「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と示されています。これを読むたびに教科書が手元に届くのは当たり前のことではないのだと感じます。同時に、この税金はご近所さんや家族などの身近な人が納めたのかもしれないけれど、大多数は私の顔も知らないような人達だと思い、あまり縁のない人達からも支えられていると感じてあたたかい気持ちになります。授業で、私のような公立中学校に通う生徒一人あたりの教育費として年間百万円以上もの税金が使われていることを知りました。税のしくみが整っていなければ、学校に通うことも難しいのだと思い知らされました。他にも、道路の整備やごみの回収など日常生活を送るうえでなくてはならない機能も、税金によって動いていました。今の私が納める最も身近な税金は消費税です。生まれた頃から存在していたものなので今まで違和感を抱くことなく納めてきました。だから、私の祖母が昔は消費税がなかったと話した時にはとても驚きました。調べてみると、今から三十四年前の平成元年に消費税は導入されたことが分かりました。この三十四年の間に税率が十パーセントも引き上げられたのかと、税の制度の目まぐるしい変わりように再び驚きました。そもそも消費税はなぜ導入されたのかを調べると、税の三原則のうちの一つである「公平の原則」が深く関わっていることが分かりました。税は全ての人に公平に使われるべきです。だから特定の人だけが負担するのではなく、幅広い世代で負担を分け合うために消費税ができたそうです。

私達の生活と切っても切り離せない消費という行動に高い税金がかけられるのは苦しいというのが本音です。この文章を書いているシャープペンシルも、座っている椅子も、部屋にあるもの全てに消費税はかかっています。だけど、これら一つ一つの税金は必ず誰かの役に立っています。私が当たり前のように学校に通えるように、誰かの当たり前も守られていると思います。豊かな社会をつくる税の循環の輪に私も少しは入ることができていると感じてあたたかい気持ちになりました。

【磐田税務署長賞】

「誰かを救う僕らの税金」

磐田市立城山中学校　三年　阪上　智哉

「とられるお金」これが僕の税金に対するイメージだった。納税は国民の義務であり、どうしても強制されているような気持ちになってしまっていたからだ。買い物をして消費税を払う際には毎回のように、消費税なんて無ければ良いのになと思っていたほどだ。

日本の税金は約五十種類もあり、代表的なものとして消費税・所得税・法人税・酒税・自動車税・固定資産税などが挙げられる。この内、僕にとって一番身近な税金といえば消費税だ。日本の消費税率は十パーセントで買い物の度に高いと不満に感じていたが、実際には世界平均の十七・六パーセントからみても低く、諸外国と比べても低い税率となっている。世界で一番消費税率の高い国はデンマークで何と二十七パーセントという高い税率だ。だが、デンマークの幸福度ランキングは世界第二位だという。対する日本は四十七位とその差は大きい。一体その差はどこから来ているのだろうか。デンマークは消費税以外にも、所得税は五十五パーセント、車の購入に至っては二百八十パーセントとかなり税率が高いようだ。その反面、世界でも有数の福祉国家といわれていて医療費・出産費・教育費などがすべて無料で、老後の保障もしっかりしているのが印象的だ。正に国家が一生面倒を見てくれるという安心感がある。そこから生まれる「心のゆとり」がデンマークの人々の幸福度につながっているのではないだろうか。多くの人が子育てや老後のお金について不安を持っている日本とは対照的だと感じた。そこで、日本の税金の使い道について調べてみた。すると、一番多かったのは社会保障関係費で全体の三十パーセント以上を占めていた。具体的には年金・医療費・生活保護・介護・子育て支援に使われているのだが、それが上手く伝わっていないせいで、税金に対してあまり良いイメージを持っていない人が多くなってしまっているのではないかと思った。

ここ数年、世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい、多くの人の命が奪われた。日本でもウイルスから命を守るためにワクチンの接種が推奨され、国からの補助で全国民が無料でワクチンを接種することが出来た。僕もその内の一人だ。もちろん、これには税金が使われている。もしワクチンに税金が使われずに無料でなかったら、もっと多くの人の命が奪われていたかもしれないと思うと、改めて納税の大切さを身近に感じた出来事だった。

日本は今後超少子高齢化社会をむかえるといわれている。そこで大切になってくるのは社会保障で、その財源は税金だ。僕も、もっと税金について知る努力をして税金を「とられるお金」としてではなく、国民みんなが幸福で豊かな社会を実現するためのものとしてしっかりと納税の義務を果たしていきたいと思う。

【磐田税務署長賞】

「子どもたちの健康を支える税」

磐田市立向陽中学校　三年　髙野　真央

私の住んでいる磐田市は、子どもの医療費が無料である。そのことを知ったのは、小学六年生の時だった。突然左腕が肩より上に上がらなくなり、個人病院に行った。何度も通ったが、一向に良くならなかったため、市立病院に行くことになった。そこでいろいろな検査をして肩の骨に腫瘍が見つかり、今度は大学病院に行かなくてはいけなくなった。病院に何度も通うなかで、ある疑問を感じた。それは、どの病院に行ってもいつもお金を払っていないことだ。会計でお金を払っている人の姿はよく見るのに、私の母はいつもお金を払っていなかった。それで私は、母になぜお金を払わないのかを尋ねた。すると母は、

「子どもはお金がかからないんだよ。無料で診てもらえるから、今回みたいに通院が続く時は本当に助かるよ。」

と、教えてくれた。母には通院のたびに仕事を休んでもらっていたので、それを聞いて、お金の負担はかけていないんだと少しほっとしたことを覚えている。

その時は深く考えていなかったが、なぜ子どもの医療費が無料なのかを調べると、磐田市には「子ども医療費助成制度」があることが分かった。これは０歳から高校生年代までを対象に、保険診療分の通院、入院時の自己負担額を無料にする制度である。健康保険の補助に加えてこの制度の補助のおかげで、私は無料で病院に通えていたのだ。

子どもは大人に比べて病気や怪我が多い。私の肩の腫瘍も成長期の子どもにたまに見られる症状らしい。病院に通う回数が多くなるほど、子ども医療費助成制度があると安心して治療することができる。しかし、医療費がかからないことで、過剰受診が問題として挙げられている。特に、夜間や休日の救急外来受診が増えると、本当に受診が必要な子どもがすぐに診てもらえなくなってしまう。それに、時間外受診になるため医療費が高額になり、税金の負担が増えてしまう。医療費が増えすぎて税金で負担ができなくなったら、この制度は続けることができなくなるのではないだろうか。そうしたら、子どもたちは安心して病院に通うことができなくなってしまう。利用するひとりひとりが、子どもの医療費は決してタダではないという意識を持つことが大切だと思った。

私たち子どもの健康を税金は支えてくれている。それはつまり、納税してくださっている多くの方々が支えてくれているということだ。私も大人になったら、税金をしっかりと納め、子どもたちの健康を支える側の人になりたい。そして、この支え合いがこの先ずっと続くといいなと思う。